

今春日産・三菱が軽の電気自動車を発売!!

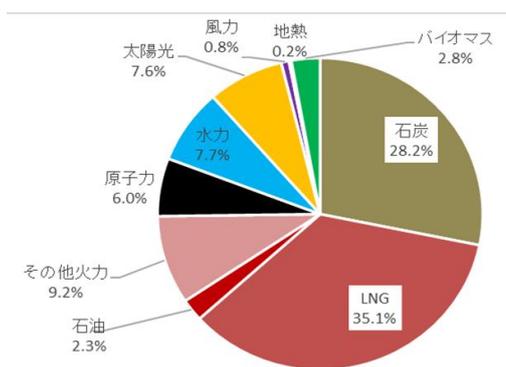
2022年春、日産と三菱は共同開発で、軽の電気自動車を販売する予定です。型は三菱アイミーブを継承し、軽ワゴンタイプ。バッテリーは20kwで、165km走行。価格は200万円。日産は車種名を「サクラ」と命名。これまで400万円台だった高値の電気自動車をもっと気軽に購入してもらおうというのが狙い。ただし走行距離がまだまだ短いので、「できたら日常生活で使用するセカンドカーとして位置づけてほしい」と販売員は語っています。

本田は昨年10月電気自動車「ホンダ・イー」を発売。しかし車内装備の充実を優先したため、販売価格が451万円と日産リーフより高くなり、しかも走行距離が283kmとリーフの300kmに及ばず、結果として販売数は伸びていません。それを反省し、本田は今新しいバッテリーの開発に力を注ぎ、走行距離の長い電気自動車を作ることに力を集中させています。

女川原発は再稼働させない!

原発はカーボンニュートラルに寄与する?

日本政府は昨年10月22日第6次エネルギー基本計画を閣議決定し、原発もカーボンニュートラルに寄与するとして、原発の電源構成比率を22%目標と設定しました。原発の現在(2019年~20年実績)の比率は、9基稼働で6%。稼働可能な33基すべて動かして、やっと22%に達する計算です。しかし東海原発は地元6自治体の合意なしには稼働できず、福井県内の稼働中の3基(高浜1号機・2号機、美浜3号機)は関電が「使用済み核燃料の県外中間貯蔵地を2023年まで示せなければ停止する」と約束。また再稼働申請すらしていない原子炉が8基も存在します。



日本国内の電源構成(2019年度)ISEP作成

原発の熱効率は石炭火力よりも劣る

原子力発電所は燃料ウランの被覆体であるジルコニウムが熱に弱いので、タービンを回す蒸気の温度は284℃。石炭火力の600℃と比較し、効率の悪い発電所です。熱効率で言えば、原発は30%、石炭火力は47%。原発ほど海(地球)を直接温める発電所はないということです。

使用済み核燃料10万年保管、地震大国日本で可能か?

使用済み核燃料は再処理しない場合、燃料プールで冷却し続けるか、乾式キャスクへの移行が必要です。モックス燃料の使用済み燃料は三百年以上冷却しなければならないことを、資源エネルギー庁も認めています。そして使用済み核燃料の保管期間は10万年、気の遠くなるような話。地震大国日本でそんなことが可能でしょうか？

こう考えてくると、女川原発は再稼働させないことが一番良い道だとの結論に達します。もちろん、事故発生用に作成された避難計画のずさんさは、誰もが承知しているところです。

きらきら発電市民共同発電所ニュース

2022年1月号 第85号

〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

電話・FAX 022(379)3777

HP kirakirahatuden.com/

Eメール hirohata3777@outlook.jp

「おだやかな革命」上映+トークライブに参加して

去る 11 月 20 日、あいコープみやぎ主催の Wa!わぁ祭り 2021 企画の一つ、渡辺智史監督の「おだやかな革命」上映とトークライブに参加しました。きらきら発電でもこの映画の上映会を計画していましたが、あいコープの企画に相乗りさせていただきました。

トーク登壇者は、渡辺監督に加えて、ひっぽ電力の目黒さん、おながわ市民共同発電所の高野さん、みやエネの浦井さん、仙台 PS 稼働差止原告団長の長谷川さん、FFF 仙台の池澤さんと多彩で、司会はあいコープの後藤さんが務めました。(コロナ対策でオンライン形式)

最初に渡辺監督からこの映画の作成に込めた思いを語っていただき、その後、みやぎ地域市民電力の 4 団体からその設立の趣旨や事業内容を紹介してもらい、さらに傍若無人な仙台港の石炭火力発電の状況、池澤さんからは気候危機・気候正義の視点から宮城で起きているエネルギー産業の問題を語っていただきました。

そのあと、参加者からの質問にも答えながらの懇談となりましたが、内容も登壇者も多彩な状況で、90 分の企画だったため、駆け足のトークライブとなりました。一番苦労したのが司会の後藤さんだったと思います。

おまけに、登壇予定の長谷川教授が大学の仕事で急に参加できなくなり、私が臨時で石炭火力の話をするというハプニングもありました。

12 月 10 日にあいコープの企画者と登壇したメンバーで振り返りの会を開催しました。当日のオンライン参加者は 24 名で、感想アンケートは 5 名から寄せられ、満足 3、まあまあ 2 の結果でした。話題になったのは、関心が 2 極化する中で気候危機や再エネの問題などに興味を持ってくれる方々をどのように広げて行くかでした。そのためにも、今後いろいろな楽しい時には奇抜な企画も考えながら取り組みましようとなりました。

今回本企画にきらきら発電の代表として登壇しました。映画を観て、渡辺監督の話を聞くのは 2 回目でした。その後の石徹白もみることができました。監督の基調にあるのは、地域とそこでの営みを愛おしむ姿勢です。テーマは時流に揉まれ破壊や縮小を余儀なくされた地域で、その再生に取り組むヒューマンドキュメントです。再エネ事業はその一つの手段です。また、石徹白に移住した平野夫妻のような挑戦者がその扉を開くことができるのだと思いました。わたしたち NPO きらきら発電は「原発や温暖化のない平和な」地域をめざし、ささやかですがそのための市民共同発電です。今後もチャレンジ精神を持ちながら取り組んでいきたいと思ひます。

後記：コロナ禍で、恒例の秋の再エネ研修旅行が 2 年続けて中止になりました。もし可能になったら、思い切って岐阜県石徹白まで足をのぼし、視察兼ねて平野夫妻と懇談する企画もありかな！？と考えました。

水戸部秀利



自然エネルギーによる地域再生。これからの時代の「豊かさ」を巡る物語。

みやぎ地域・市民電力連絡会年会

2022 年 1 月 16 日(日)13:00~

仙台市市民活動サポートセンター

6 階セミナーホール

オンライン参加可 参加費無料

記念講演 高橋洋氏(都留文科大学)

第 6 次エネルギー基本計画でカーボ

ンニュートラル実現できるか？

問い合わせ先=松浦

feff10@yahoo.co.jp

022-746-3224